

親しく正しく和ら

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御開士大平日普上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿

No.47

令和4年1月1日発行



本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ <http://myojyuj.or.jp>



弔辞

本日、謹み敬つて法華宗（本門流）宗務総長 二瓶海照台下、廣大院日照上人、法華宗（本門流）宗務院・学校法人法華学園合同葬の儀典を處修せらるるにあたり、宗教法人法華宗（本門流）宗務院内局一同を代表し、謹みて弔辞の意を捧げます。

総長台下ご遷化の報は、私どものみならず、全宗門人、延いては日蓮聖人門下、仏教界全体にとりまして青天の霹靂でありました。先日行われ、また宗務総長選挙において、宗門各聖のご推挙を受け立候補され当選、第四次一瓶内局発足に向けて、また開催が延期されていた宗祖日蓮大聖人聖誕八百年報恩感謝大法要の奉修など、コロナ後の宗門発展に向けて、まさにこれから更なる活躍を賜るものと信じ、全力でお仕えするべく、心構えていた矢先の事であり、一同、銷魂の極み、無念でなりほせん。

総長台下御生前中、そのお人柄は温厚篤実、時を得ては剛毅果敢、会議でも懇親会でも台下の呵呵大笑は周囲全てを笑顔にしてくださいました。

台下のご功績は枚挙に遑無く、語り尽くせませんが敢えて挙げさせて頂くのであれば、布教と教育に尽瘁なされました。昭和四十四年に発足したばかりの法華宗青年伝道隊第一期生として布教・弘通に貢献され、後に法華宗布教師会の会長も長くお務めになられました。平成二十一年に宗務総長に就任されてからは三期十二年の長きに亘り、宗門を牽引し、宗務運営、檀信徒教化など、陣頭指揮をお執り頂きました。台下の決断力、行動力、実行力の比類無き事は、衆口一致することであり、また、

殊に、平成二十三年の東日本大震災、近年のコロナ禍という未曾有の事態であっても、台下は冷静沈着、機略縦横、いち早くご対応

され、私どもを導いてくださいました。その根底には台下が若い頃からお持ちであった弘通仏宣、真俗圓滿を願うという強いお気持ちがあったからでありましょう。

教育、殊に後進育成にもご尽力いただきました。興隆学林新校舎建設、信行勸学院の改修、さらには宗祖聖誕八百年記念事業としての法華宗サンフランシスコ仏教会のリフォーム耐震工事の完遂、行政面に於いては、法華宗布教師修所の新設、全日本仏教会への役員派遣、勝劣派各御宗門との交流もその一つでありましょう。

常に宗門を想い、若い者の行く末を考え、利他の精神に富んでおられた台下、その警咳に触れた者も多く、この堂内のみならず、全国各地に台下への感謝の言葉とその御遷化を悼む声が満ちております。

未だ警戒を怠ることのできないコロナ禍、昨今の経済事情、人心の乱れが顕著なこの時、二瓶総長台下が立案、実行されようとした事業が多々ございました。

「コロナ禍だからではない、コロナ禍だからこそ出来る事、やるべき事がある」として種々ご対応いただきました。さらに少子高齢化という時流に對しても果敢に取り組まれておられました。私ども未熟にして台下の足下にも及びませんが、そのご遺志を継ぎ、それぞれの役割を果たして参る所存でございます。

靈山浄土より御教導賜りますとともに宗門繁栄、弘通仏宣に御守護御加護賜らんことを冀い、以て弔辞いたします。

若親近法師、速得菩薩、隨順是師学、得見恒沙佛、本門八品上行所伝本因下種之南無妙法蓮華經

維持 令和三年十一月九日 法華宗 宗務総長代務者 総務部長 三吉廣明



「華の宴」（一雙屏風右隻）中村美希画・平成29年 猿江別院所蔵

法華宗（本門流）宗務総長 二瓶海照台下ご遷化



令和3年11月13日、法華宗（本門流）宗務総長（同代表役員）・学校法人法華学園（興隆学林専門学校）理事長 二瓶海照台下がご遷化されました。6日前お元氣にて、代々木立正寺聖誕八百年大法要の御導師をお勤めなられた後の、俄のご遷化でありました。

台下は3期12年に亘り、法華宗宗務総長として多くの業績を残されました。17、18日には、富山市に於いて、ご自坊信行寺葬として通夜、葬儀が執行され（写真下）、12月9日には法華宗宗務院・学校法人法華学園合同葬として（左記に当住上人弔辞転載）、興隆学林のある尼崎市大本山本興寺本堂にて肅やかに奉修されました。



【略歴】昭和20年千葉県に生まれ、同39年に法華宗興隆学林本科を卒業、翌40年に信行寺住職に就任。北陸教区宗務所長、法華宗布教師会会長などを歴任、平成21年に宗務総長に就任。興隆学林校舎新築、檀信徒代表者研修会の開催や布教研修所の発足など、宗門の布教体制強化を進める。

寺日記

てらにつき

- 8月29日 浅見真州師四十九日忌法要 於駒込・江岸寺
- 9月16日 日蓮聖人門下連合会身延理事會 於山梨県身延町・久遠寺①
- 9月23日 金沢・金師宮崎寒雉氏 継承茶会 秋季彼岸会合同法要 300余名参拝焼香
- 10月3日 伊勢ヶ浜親方還曆土俵入り 当住夫人参加
- 10月9日 宗祖お衣替え②
- 10月18日 安田顕實師七回忌法要③
- 10月21日 宮武憲之先生（同志社大学）鴻池・永岡家事跡調査来山④
- 10月23日 彫刻家吉田大象先生（信光院智温日象居士、十三回忌追善菩提彫刻家吉田芳夫先生（創隆院智微日芳居士、三十三回忌追善菩提宗祖御会式、200余名参拝宗祖日蓮大聖人聖誕八百年慶讃報恩感謝大法要、導師宗務総長二瓶海照台下、於代々木立正寺第15回日経能率鑑賞会
- 11月8日 浅見慈一師「楊貴妃」於千駄ヶ谷・国立能楽堂
- 11月9日 烏山仏教会 於常福寺（2年ぶり開催）
- 11月11日 烏山小学校児童約100名寺内見学 西澤國光職員案内
- 11月13日 第19代法華宗宗務総長二瓶海照台下御遷化
- 11月14日 富山市信行寺へ当住上人弔問
- 11月17日 二瓶宗務総長台下通夜 信行寺葬（葬儀）
- 11月18日 於オークスセレモニーホール平安

法要のご案内

（別紙参照）

コロナウイルス感染の拡大防止のため、感染対策を十分に行い奉修いたします。

節分会追善式（豆まき）

2月3日（木）

春季彼岸会中日法要

3月21日（月・祭）
初座：午前11時 第二座：午後2時

孟蘭盆会施餓鬼法要

7月16日（土）
新孟蘭盆会法要（新盆） 午前11時
孟蘭盆会法要 午後2時

宗務院 DIARY

8/30,10/8,10/27,11/17,12/21 内局会議
9/7-9 教学研究所総会 ズーム・リアル併用
11/17,12/21 責任役員会議

新規墓所のご案内

3尺×4尺=6基
3尺×3尺=6基
2尺×2尺=8基

詳細は当山までお問い合わせください。

正隆会

【SHORYU-kai】
午後2時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

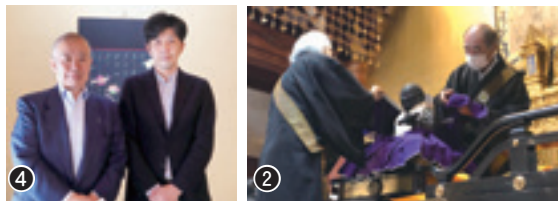
新型コロナウイルス感染拡大防止のため離隔距離をとり、実施いたします。

- | | |
|----------|--------------------|
| 1 月 8 日 | 初題目・勉強会「日蓮紀行」拝読 17 |
| 2 月 3 日 | 節分会追善式（豆まき） |
| 3 月 12 日 | 勉強会「日蓮紀行」拝読 18 |
| 4 月 未 定 | 正隆会ウォーク（予定） |
| 5 月 14 日 | 勉強会「日蓮紀行」拝読 19 |
| 6 月 11 日 | 勉強会「日蓮紀行」拝読 20 |
| 7 月 9 日 | 写経会 |

鵠沼・晴明庵 11月23日 御会式



猿江別院御写経会 10月14日（木）・12月9日（木）
午後1時より 午後7時まで開催 参加費：500円



● 11月20日 第11回 竹灯籠能・落語会
秋晴れの中、春風亭一之輔師匠による落語、第1席「唾の釣り」、第2席「うどん屋」を披露し、一之輔師匠・浅見慈一師・当住上人による三者座談会が行われました。その後、竹灯籠能「杜若」を浅見師により、華麗な舞いが演じられました。⑤

● 11月26日 総代会・歴代法要・懇親会
● 11月29日 当住夫妻、返子妙法精神教会訪問

● 12月7日 東京都仏教連合会成道会 於有楽町朝日ホール
● 12月9日 二瓶宗務総長宗務院学林合同葬 於尼崎市本興寺⑥
● 12月12日 猿江別院写経会
● 12月24日 内田祥三先生五十回忌法要 お焚き上げ法要

久美夫人、茅ヶ崎彫刻家吉田芳夫先生御子息建氏宅彫刻奉納御礼訪問

鼎談「内田祥哉先生の思い出」(上)

早苗靖夫氏（早苗家12代目当主・当山総代）

三浦清史先生（こうだ建築設計事務所代表）

三吉廣明上人（当住上人）

令和3年9月13日10時30分より

於妙壽寺・東祥苑・持仏の間

住職 三浦先生、早苗総代、こんにちは。本日はお忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

今日は、本年5月3日にご逝去された、妙壽寺のご総代であり建築家、そして、東大名誉教授である内田祥哉先生の思い出を早苗総代、三浦先生と語り合いたいというところでお集まりをいただきました。先般内田先生のご自宅に上がったときにお身内から先生のアーキテクチャ（建築学）誌を頂きました。これから建築業界誌から、内田先生の業績、足跡なりがいろいろな形で出てくると思われます。

今日は妙壽寺と内田先生との関わりとして、内田先生がごのお寺に残していただいたものは何か、そして、これから我々がそのご遺志をどのように生かしていくべきか、そのようなお話を伺えたらと思います。

早苗さんのご記憶の中で、初めて内田先生にお会いしたのは本堂再建建設委員会の会計をご担当頂いた時ですか。

早苗総代（以下、敬称略） そうですね。

住職 本堂落慶30周年記念に内田先生へのインタビュー（平成24年「テラス」12・13号）が掲載されましたが、本堂再建建設委員会結成当時の総代の小林（美之助）さん、世話人の田辺（善雄）さんと私で、東大11号館の工学部の内田先生の研究室にお伺いしたときの緊張感がまだリアルに残っています。そのときに内田先生が「妙壽寺さんとの縁ですから、これはお引受けをしましょう。ただ、運営と財務に関してはご総代方をお願いをしたい」とおっしゃいました。あの当時、内田先生は現職の教授で、公職が40幾つかあって、毎日が多忙を極めるお立場でした。でも、お受けいただきました。

早苗さん覚えていませんか。田邊さんが松井建設の八角の本堂の図面を持ってこられて、あれが結構、起爆剤となって、総代会で本堂再建をやるうという話が大二階で出ましたね。

早苗 大概、建設委員会的时候は角の部屋でしたね。

住職 そうです。田邊さんがそれを広げたのが大二階、鍋島客殿というイメージがありましたけど、加藤とくさんがいらして、それから、第一回のときは小松（手兵衛）のおじ様が…。

早苗 ええ。おじがまだ元気でした。内田先生は、最初にお目にかかったとき、



存じりの内田祥哉先生

怖い印象がありましたね。それで、後でちよっとお話するときのお顔と、会話のときは非常に静かに、よく分かるようにいろいろ教えてくださりました。

本堂再建委員会

ー存在感を放つ内田先生

住職 さて、昭和59年5月13日、新本堂が落慶してスタートしました。小林さん、丹野（政雄）さん、宮岡（栄吉）さんという3人のご総代があらわれて、お寺としては基金があつて、その基金とお檀家からお金を勧募すると。そういう体制の建設委員会でした。

早苗 はい。その時の写真が確かあります。

住職 早苗さん、本堂再建委員会での思い出はございますか。

早苗 盛高（勢以・故人）さんからご寄附いただいた土地が、割にその当時のいい値で売れたということで、非常に安心したというか、3本柱の1本という感じでしたね。

住職 そうですね。そのあたりも内田先生が非常にご心配されました。ところがお寺のもともとの蓄えと、当時盛高家という大檀家さんがおりましたが、それこそ内田研究室がある東大本郷のすぐ近くに盛高家の貸地底地があり、それを売却させていただきました。3本目が檀信徒からの浄財です。

三浦先生、私がよく覚えているのは、新本堂は2年半ぐらいでできる計画ですが、盛んに内田先生がおっしゃっていた

のは、「寺院建築というのは非常に時間をかけて、何代もかけて、場合によっては100年単位ぐらいでやるものです」と。「だから、住職、重々によく考えてください」ということを強くご意見を受けました。

最初に心に残るご意見は、一般の住宅はすぐ住まなければいけない、必要に迫られているということもあるけれども、社寺建築というのは長いスパンの中でいいものを残していくという考えがあるのですよと。今考えたら当たり前ですが、非常に示唆に富んだサジェスチョンです。三浦先生、いかがですか。

三浦先生（以下、敬称略） そのとおりだと思います。先生、案外せっちな性格だったと思いますが、早く容易に決めるということに対しては、内田先生、抵抗があつたようです。決断するには、よく考えてからと。

早苗 ゆっくりでいいということをよく言われましたね。

住職 おっしゃっていましたね。

三浦 ここ（東祥苑）の設計の素案というか、エスキス、全部で26案ぐらい描かれたわけですね。あのときは早苗さんも関わられて、2週間に一回の打合せだから月に2案出たとしても、かけた時間は1年なんてものじゃないですよ。

住職 私は、そこで初めてエスキス（下絵）という言葉を知ったということもあります。

三浦 猿江別院設計のときに、僕は2案しか作らなかつたということから考えると内田先生の熱意には頭が下がります。

住職 今も時々、翠雲堂が須弥壇、前机を新調し、その横にパネルが貼つてあります。あの建設委員会の方々の顔を一人ずつ思い出しますね。

でも、今、エスキスの話が出ましたけど、建設委員会も随分行ないましたね。

早苗 有能な方ばかりでしたね。それで、お話していても、よく分かるように話してくださり、勉強にもなつたし、私なんかはね。お寺に来るのが楽しかつたですね。そういう感覚がありました。本堂が建つんだという、皆さんの意気込みがすごかつたですからね、あのときは。

住職 今、思い出しました。日照上人のことを恐ろしくその当時一番よく、時代的に同じ時代を歩んでこられた婦人会会長の加藤とくさんがお元気であらわれて、ある種のそういう意味では加藤とくさんが精神的支柱でしたね。そこに、60歳ぐらいの内田先生がおられて、その内田先生がいることの安心感があつて、その両輪でもって建設委員会が成り立っていました。

早苗 本堂にいろいろありましたね。

堺市顕本寺本堂が完成するまで

住職 さて、そういう中で、日照上人を尊敬していただいていた堺市顕本寺の三

島秀也上人を本堂落慶式にお招きしました。それから3年して、今度は私が組寺の、横浜のお寺さんが兼務しているお寺が、群馬の四万温泉にありました。その入山式のときに、三島上人が出席されていて、落慶式の後に、妙壽寺本堂と同じ本堂を建てたいと思うが、内田先生を紹介してくださいと頼まれました。その後、内田先生の作品に顕本寺さんの本堂が加えられました。

ところで、大阪ガスが内田先生に特命でご依頼というのはどういう経緯だったのでしょうか。

三浦 NEXT21という大阪ガスの試作実験住宅のプロジェクトですね。どのような経緯で内田先生が引き受けられたのかは知りませんが、先生が長年研究されていた、インフィルとサポート、日本ではS1住宅と言っていますけれど、構造躯体と内装を分離して、建てましようという、そういう仕組みの実践の一つです。このプロジェクトが内田先生と一緒に仕事をすることになったきっかけです。

日本建築家協会のインドネシア旅行から帰ってきたら、留守電にあの甲高い声で、「書院と数寄屋の間みたいなものを設計したいと思うので、手伝ってくださいませんか」と入っていたんですね。それまで内田先生とそうしたおつき合いというのはなかつたので驚きました、突然で。

住職 阪神大震災のときに、顕本寺さんの実は本山である尼崎の本興寺が罹災し、政府の文科省、文化庁のお立場で内田先生が行かれたんですね。

そうしたら、そのときご買首と政府委員の方がお話する席で、「先生は東京からお見えになったそうで」とご買首が話して、「私も東京にいた頃があります」「どこにいらしたんですか」「妙壽寺ということにいました」「私は妙壽寺の総代です」。「買首であつた大平日晋宛下は大変驚かれたとの事です（不敬事件が勃発の昭和16年に当山におられた）。

早苗 内田先生は、明治・大正・昭和の棟梁は、日本建築の本当にいいものができた時代なんですよ、よくおっしゃっていましたね。だから、いいものがあるんですよ、残っているんですよ。

三浦 顕本寺を設計した時のエピソードの一つとして忘れられないのは、最初妙壽寺の本堂と同じものを造ってほしいと三島上人に頼まれた。そのときに、それで、どのぐらい費用がかかるかと、この設計を清水建設で担当された木内（修）さんに相談したところ、図面を頂いて、今なら屋根坪で500万円くらいかかりますよと言われた。そうすると10億ぐらいになるので、とてもその時の予算には合わなかつた。

住職 妙壽寺ができたのがちょうど建築不況からバブルになる直前でしたね。ですから、建築不況の本当の最後の頃でしたから、ある意味では低廉だったのかも

しれないですね。

三浦 それで、顕本寺の三島上人が上京し、今の費用としてはこのくらいしかないけれど、それでも引き受けていただけないかと内田先生の事務所まで頼み込まれた。途端に先生はやる気モードになったんですね。それまでことと同じものを造って欲しいと言われていたときには、あまり気乗りしないご様子だったのですが。

住職（笑）なるほど。

三浦 予算がないからということで、サポート（構造）をコンクリートのプレファブリケーションで工夫し、インフィル（内装）はお金の集まり具合で、徐々に仕上げてゆこうというNEXT21の応用ですね。お金が集まるまでは本堂は莫大敷きでも我慢しますとおっしゃってその考え方を容認して下さった三島上人には、先生、ずっと感謝していました。

住職 そういう内田先生のモチベーションは、すごいですね。お金があればいいとか、そういうことは気にしていないです。すぐく工夫しようとか、先生のご本の『造つたり考えたり』じゃないけど、本当に造つたり考えたりするということが身にしみてお好きで…。

三浦 いや、ほんとうなら予算はあるにこした方がいいのですが。例えば東祥苑の時もそのできばえには満足されていたと思います、褒めて下さいましたから。でも「良くこの予算で」と枕詞がつかましたからね。

東祥苑の設計

ー人との交流で生まれる創意工夫

住職 早苗さんにはお寺の行事の受付を母堂尼上人の時代からしていただいていた。大玄関を入つて左側が事務所というか、受付でした。いろいろなお寺さんを見て、新しい受付の形式を造る。それには、バリアフリーであること、職員さんが、仕事ができる事務所を造つてもらう。それから、お台所の使い勝手、それから、2階にお大事な方が来たときに接遇する場所、幾人かの書生さんが泊まる部屋を造つていただく。そういう要望を含めてこの東祥苑の設計と建築について

早苗さん、東祥苑の設計と建築について当時の思い出としては、いかがですか。
早苗 私自身も一生懸命考えて、部屋割りやなんかまして、先生に見せたことがありました。何ヶ所かは、こういうのはいいねということをおっしゃられたところがありますね。

三浦 それから、覚えているのは受付のところですが、あれのときの条件としては、受付にいつも人が常駐して座っている。そのときに事務用品などをまとめてワゴンで事務所から受付に出し入れすれば便利だというのは早苗さんのアイディアでした。

住職 そうそう。お塔婆ですね。

三浦 お塔婆入れのワゴンもまた早苗さんの発案でスケッチや写真を出してくださつた。

受付では内田先生のごんな工夫があります。それは靴のまま小玄関の土間からの来訪者にも、大玄関から靴を脱いで来た来訪者にも椅子に腰掛けてもらうことで、同じように対応できるようにカウンターと床の高さの関係をつくり、さらに畳に座つた来訪者には腰掛ければと、同じ場所でも三様の対応ができるというのが内田先生らしいアイディアで、ご本人もけつこう気に入つていらしたようでした。受付が常駐ではなくって思つたような使い方がされなかつたことが、すごいん未練だったんですよ。

そのように使われなかつたのは、上下足を切り替える場所が曖昧だったからかもしれません。

住職 上足と下足の話は随分しましたね。
三浦 そうですね。本当は受付のすぐ後、渡り廊下じゃないけど、狭いところがありますね。そこで靴を脱いで事務所に入る予定で、場合によっては土足で事務所に入つてもいいという考え方でした。

内田先生にとつて上下足の曖昧な空間はその頃のテーマでした。先生のご自宅でもそうですが、誰も先生の思い通りには使つてはくれなかつた。NEXT21も、ご自宅でもそうだった。最近では、住宅の中に土間の形で土足の空間を造るという設計はよく見かけるようになりました。NEXT21の中でもそういう住宅があります。ところが、内田先生の発想というのは、何となくそれが入り交じっている。

要するに、これだけ都市化されて、舗装された道路だから、昔みたいに泥のついた靴で上がることはない。そうはいつても雨のときは困るので、なかなかそういう使い方はできないのだらうけど、住まいが洋風化する中で上下足のことが取り入れられなかつた思想で、ある学者の家を設計したとき、来客がほとんど外国人だったということで、そこでの経験などもあつたのではないかなと思います。

住職 やはり先生のおめがねにかなつたというか、そういう言い方はよくないですが、先生のそういうお人とのつながりというのは、すごく我々にも影響していますね。

三浦 そうですね。NEXT21の時に私のところに電話があつたのも、そういうひょんなところからですが、本当にそういうつながりができてゆくところところが面白いですね、内田先生の交流は。

住職 それが偶然に、妙壽寺に10年書生さんをした平島盛龍先生が西澤工務店で本堂を建てたわけですから、不思議といえは不思議ですね。

早苗 そうですね。あれは不思議に思いましたね。